

I 令和5年度事業報告

1 令和5年度事業実施概要

今年度もロシアによるウクライナ侵攻や中東情勢など、世界情勢は混沌としている。国内でも、円安による物価高が最大の懸案事項になりつつあるが、一方で、コロナ禍の終息に伴うインバウンド需要の増加が顕著になってきている。

畜産経営においては、飼料価格の高騰が収まらず、厳しい経営環境が継続している。

このため、酪農経営では戸数の減少が顕著となった。また、肉用牛では、黒毛和種子牛価格の下落に伴い、和子牛生産者臨時経営支援金及び肉用子牛生産者補給金が発動した。肉用牛肥育においても、枝肉価格の低下により肉用牛肥育経営安定交付金が発動した。

一方、家畜衛生については、県内での発生はなかったものの、高病原性鳥インフルエンザが、全国では9県10事例の発生が確認されており、不安な状況が続いている。

豚熱についても、依然として野生イノシシの陽性が確認されており、ワクチン接種農場での発生もみられることから、引き続き農場のバイオセキュリティ強化が必須である。

また、近隣諸国では依然として口蹄疫、アフリカ豚熱、鳥インフルエンザ等の家畜伝染病が発生しており、畜産農家の懸念は継続している。

当協会では、県予算による飼料価格高騰緊急対策事業をはじめ、畜産クラスター機械導入事業や畜産ICT事業、楽酪GO事業の推進、和牛繁殖経営支援対策、肉用子牛補給金制度や牛マルキン制度、家畜伝染病に対するバイオセキュリティの強化、加えて、農場HACCP構築、乳製品の消費拡大に向けたイベント等により、畜産経営体の体質強化・経営安定に資する事業を実施した。

また、畜産女性を中心とした農業高校出前授業を開催し、畜産業に対する理解醸成を図るとともに、県産食肉の消費を推進するための冊子を作成、国産食肉フェアを実施した。

一方、事務局を預かる活動として、生産者団体の抱える課題について県行政に要望するとともに、消費者に対しては、メディアを活用しながら畜産物の消費拡大が生産者の応援に繋がることを訴え、健全な畜産業界の維持発展のため、協会一丸となって活動した。

2 令和5年度の主な行事

(令和6年3月末日現在)

年	月	日	行 事 内 容
5	5	26	(一社) 三重県畜産協会 定期監査会
	6	14	(一社) 三重県畜産協会第1回理事会
		30	(一社) 三重県畜産協会 定時総会
	7	10	(一社) 三重県畜産協会第2回理事会(書面決議による)
		30	(一社) 三重県畜産協会第3回理事会(書面決議による)
	8	2	農関係団体と三重県知事との意見交換会
	9	26	三重県畜産研究所第1回研究評価委員会
	10	25	(一社) 三重県畜産協会第4回理事会
	11	16	三重県財政的援助団体等監査(予備監査)
	6	1	30
2		28	(一社) 三重県畜産協会第5回理事会(書面決議による)
3		13	(一社) 三重県畜産協会 臨時総会(書面決議による)
		14	三重県畜産研究所第2回研究評価委員会
		22	(一社) 三重県畜産協会第6回理事会

3 会員の状況

(令和6年3月末日現在)

	期首	増加	減少	期末
正会員	36	0	0	36

4 職員に関する事項

(令和6年3月末日現在)

	期首	採用	退職	期末
正職員	5	0	0	5
嘱託職員	5	0	0	5
臨時職員	0	0	0	0
パート職員	3	0	0	3
合 計	13	0	0	13